

平成 29 年度 活動計画書

平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

重点活動方針

I 環境教育プログラムの研究開発

－ 2017 年度の重点は協働による講師派遣事業の発展的達成とプログラムの改善と開発 －

新たな自然分野・地球環境問題・循環型社会・健康安全分野のプログラムの開発を進める。具体的なプログラムの内容については、ワークショップや新設するプログラム研究会にて調整し、開発を進めていく。以下は、現在新たに開発を考えているプログラム。

◆ 紙芝居（★は 2016 年度作成）

既成の紙芝居	開発中・開発したい紙芝居
1 いもむしのたからぶくろ	1 お日さまとなかよし（幼児編）
2 はらっぱのかくれんぼ	2 テントウムシとなかよし
3 木の精キロリのひみつの祈り	3 とんぼとなかよし
4 どんぐりコロコロ お山はおおさわぎ	4 ちょうとなかよし
5 土のこびと～フーフワ、モークモク～	
6 風となかよし	
7 森と子どものひみつ作戦 ★	
8 お日さまとなかよし ★	
9 水となかよし ★	
	改定を検討している紙芝居
	1 木の精キロリのひみつの祈り
	2 水となかよし

◆ 自然生態系分野

既成プログラム	既存の導入活動（例）
1 いもむしのたからぶくろ	1 キロリのオニごっこ
2 そっとのぞいてみよう	2 葉っぱじゃんけん
3 木の精キロリのひみつのいのり	3 コウモリとガ
4 どんぐりコロコロお山はおおさわぎ	4 カモフラージュ
5 土のこびと～フーフワ、モークモク～	
6 季節の自然と楽しく遊ぼう	
7 好きな色を見つけよう	
	開発中・開発したいプログラムなど

8 ヤゴ救出作戦 9 学校の木を決めよう 10 ぼくの木 わたしの木 11 同じものを見つけよう 12 木ってどんな顔をしているのかな	1 季節の自然たんけん センスオブワンダーを育てる(公園編) (その他、ワークショップ等で提案・検討)
---	---

◆ 地球環境問題分野 (エネルギー学習プログラム)

既成プログラム	開発中・開発したいプログラムなど
1 かぜとなかよし 2 お日さまとなかよし 3 水となかよし 4 環境への負荷を減らす これからのエネルギーを考えよう 5 50年後の板橋を考えよう —高学年～中学生・高校生	1 お日さまとなかよし (幼児編) 2 オルゴールを鳴らせ (中～高) 3 家庭でミニ発電 4 温暖化ってなんだろう 5 暑さ調べ - 板橋プログラムバンクより

◆ 健康・安全分野

既成プログラム	開発中・開発したいプログラムなど
1 放射線の内部被ばくから 身体を守る生活の仕方	

◆ 循環型社会の問題

既成プログラム	開発中・開発したいプログラムなど
1 みそ造り 2 豆ふ作り 3 食べ物はどこから 4 ペットボトルの水～水道水 5 旬の野菜を調べよう 6 大豆の栽培 (上記1・2の体験学習へ) 7 綿の栽培から糸つむぎへ	1 きなこづくり 2 醤油づくり 3 納豆づくり 4 梅干しづくり

◆ 既成プログラムの改善

- ① 緑のカーテンを作ろう
- ② 地球温暖化を調べよう

II 出張授業・イベントでのプログラム実践の普及

出張授業

- ① 保育園 保育園・幼稚園 **13園** (全 42 園*中 **31%**) 実施へ普及させる。
- ② 小学校 区立小学校 **20校** (全 53 校中 **38%**) で 25 回実施実施へ普及させる。
- ③ 中学校 公立中学校 **2校** (全 23 校) で 2 回実施実施へ普及させる。
- ④ 都立高校
エネルギー問題、放射線、フードマイレージを中心に、高島高校に続き、東京都教育委員会 生涯学習課等に申し入れの計画はあったが、立ち消えている。
板橋高校の教師を行政から紹介されているため、地球環境問題を柱に交流を開始する。

★ 前年度、学校へのお出張回数が減った原因

ワークショップの活動の活発化に合わせ、紙芝居のお話作り 3 本など、プログラムづくりの活発化。エコライフフェア winter など、イベントの増加。日本語学校の学生へのみそづくり講座など、打ち合わせの増加。2～3 学期は特に、3. 1 1 から未来をひらく会の事務局の業務。2 月から始まった指定管理者との打ち合わせや、打ち合わせの原案作りなど、飛び込み業務。結果として、学校への働きかけが少なくなったため。総合力としては、少ないメンバーに荷が増えた。

イベントほか

- ⑤ 大学
家政大 宮地ゼミを核にインターンシップ、ボランティア活動の普及。16 年度も指導者養成、プログラム開発、ボランティア活動の普及に取り組む。
チラシを送付する大学 — 日本女子大、家政大、法政大、早稲田大、大東文化大、立教大、東洋大、帝京大、東京家政大、淑徳短大
- ⑥ 一般市民向け講座
2017 年度、とうふ講座を開発するなど、循環型社会・自然・地球環境問題・健康安全の各分野において、市民講座の定着を図る。
 - ・ 味噌づくり — エコポリスセンター共催 (30 人規模)
 - ・ 食育 — とうふづくり体験など
 - ・ 自然観察フィールドワーク
 - ・ エネルギー (省エネも含む) などの講座 — ミニ水力発電器を作ろうなど
 - ・ 公園を使ったフィールドワークに参加 — 成増社会教育会館と協働
 - ・ フクシマ 7 周年目 — 3・11 から未来をひらく会の 2 回目

III 活動を、プログラム開発を支える組織基盤の強化

－ 2017年度の重点は、エコポリスセンターとの協働の取り組みをやり遂げる －

マネジメントに関して

- ア. 申し込みを受けたら、すぐ学校側と連絡し、実施日を調整する。
- イ. エコポリの担当者（志賀さん・深須さん）に事務連絡をする。
- ウ. 月1回 エコポリと担当者会議を行う。
（参考）2017年度 これまでの会議・打ち合わせ等の記録
- 4月1日 初日あいさつ
 - 4月3日 打ち合わせ連絡会
 - 4月第1週 瀬山副館長と、学校長向け文書打ち合わせ連日行う。
以降、授業の申し込みごとに連絡しあう。
 - 5月22日 打ち合わせ連絡会 — 契約書・授業予定表・報告用紙の確認
以後月1回程度、打ち合わせの予定
- エ. 講師料（22,000円×30回分）を予算化し、運用する。
（方針）SOEへの講師料から指導者・スタッフへの手当を予算化する。
- オ. 学校のニーズに合わせ、プログラムを作成したり改良したりする。
（参考）2017年度 これまでの取り組み
- ・ 動物交差点を学年全体の93名で取り組む。
 - ・ 「大豆の栽培 — 大豆ってすごいぞ」のプログラムを新規作成した。
 - ・ 見次公園観察のカードを検討し、公園観察のプログラムを作成した。

プログラムの作成・改定、ならびに各事業および団体の組織体制を強化するため、以下の取り組みを行う。

★ 組織体制の強化に向けて

- SOE環境学習プログラム研究会の日程を確保する（第1日曜日など）
- 出前授業参加者を、昨年度より増やす。現在の2～3人に対して、更に増やしていく。
- 理事の参加・ボランティアの募集により定例の第2・第4日曜日の活動を支えるメンバーを増やす。
- ✓ SOE通常組織活動の担い手確保の課題に対して、ニュース発行とワークショップ参加のメンバーへの課金など、労苦に応える方法を考える。
- 理事会を定例化する（3か月に一度 第4土曜日など2時間程度）
- ✓ 理事が責任持つ分野を決め、活動に提案・参加・支援する。
- 環境教育をはじめとする活動への参加者の増加を目指す。
- ✓ 助成金との兼ね合いをとりながら、環境学習体験会などのワークショップを運営する。
- ✓ 環境教育 紙芝居の協働開発を大学のゼミやサークルを中心に呼びかけ、交流会につなげる。
- ✓ 東京家政大宮地ゼミを核にインターンシップ、ボランティア活動の案内を行っていく。2017年度も指導者養成、プログラム開発、ボランティア活動の普及に取り組む。
- ✓ 大学生・一般市民を対象としてボランティアを、大学生を対象として環境教育インターンシップを募る。

V 500万財政目指した取り組みの具体化

- ① ボローニャ絵本館の受注
受注額 2,234,563 円（前回 2,013,984 円）
2017 年より、新たに 3 名参加し、13 人体制でスタートした。
1 回を隔週で交代して勤務する日がある。
- ② 活動責任者・事務局への課金体制の構築
 - ・ 10 年間、環境教育普及のために、無償で活動を支えている事務局メンバーを始め、ニュース発行、ワークショップの準備運営、各イベントの準備・参加者組織・運営のために献身貢献しているメンバーに、課金出来る体制作りを全力を尽くす。
 - ・ 事務局へ、月額 15,000 円（事務局長）・ 3,000 円（ボローニャ担当）・ 3,000 円（ニュース担当 2 名）を確保する。
- ③ 会費・寄付を積極的な獲得
2017 年度は、会員拡大、会費納入を基盤にし、以下のことを行う。
 - ・ 正会員 30 人ほか、賛助会員や学生会員の会費納入を進める。
納入目標 222,000 円（昨年度、156,000 円納入。）
 - ・ 個人寄付の定期的な募集の継続。納入目標 200,000 円。
- ④ イベントなどでの収益の獲得（新規）
S O E 独自の物品販売の可能性を検討する。軽くて重宝がられるものなどを検討する。
- ⑤ 助成金の申請を継続
今年度、東京ガス環境おうえん基金より 50 万円を獲得した。
地球環境基金などにまた挑戦する他、可能なところへ申請する。
なお、板橋区のボランティア・NPO 助成には今年度は申請せず。
- ⑥ 認定 N P O 法人の申請を見通す。一寄付者に半額税金が返る団体となる。

1. 事業部門

A 環境教育の事業

A.1 環境教育プログラム研究開発・実践活動・発信活動

A.1.1 環境教育プログラムの研究開発

- 新規プログラムの開発および改訂に取り組む。内容は総会・理事会などで決定した方向性をもとに、環境学習体験会・環境学習プログラム研究会を始めとするワークショップにて随時検討する。
- 年間 8 回の環境学習体験会では環境学習のプログラム体験と学習材づくりの 2 本を柱として開催する。日程・内容は、以下を念頭に理事会などで調整していく。
日程：4 月 30 日・5 月 28 日・6 月 25 日・9 月 24 日・10 月 22 日・11 月 26 日
・2 月 25 日・3 月 25 日
内容：紙芝居（絵本）づくり・ICT 教材づくり ほか
なお、紙芝居や絵本を始めとする学習材づくりについては、東京ガス環境おうえん基金より「環境学習指導者を育む 絵本・紙芝居・学習材づくり」事業に対する助成を受けて、運営にあたる。
- 環境学習プログラム研究会を月 1 回程度の頻度で開催する。日程・内容は、依頼があった出張授業や体験会との兼ね合いの中で、随時研究会内で調整する。
- ニュース発行日を含む、定例のワークショップに関しても継続的に実施する。体験会・研究会を含め計 30 回程度の活動で、活動従事者は延べ 300 人程度を目指す。

A.1.2 環境教育プログラムの発信活動

- 10 周年記念冊子の普及促進により、環境教育プログラムを広く発信する。今年度は 50 冊販売を目指し、理事会やワークショップなどで計画を具体化する。
- 中長期的には、5 年後を見通して、全国・世界に通用するプログラム集を作成する。
- HP 版プログラムバンクを再整備し、保育士・先生がプログラムを検索・実践しやすくする仕組みを構築する。同時に、資料や紙芝居などの貸出体制も整備する。
- 板橋区内にある全ての保育園・幼稚園・小学校・中学校にむけて、環境教育プログラムに関する資料を提供する。

A.1.3 環境教育プログラムの実践活動

- 出張授業による実践活動は、エコポリスセンターとの協働や広報の充実により拡大を目指す。保育園・幼稚園・小学校・中学校で、年間 40 回程度の出張授業の実施が見込まれる。活動従事者は延べ 180 人程度、対象は 1,800 人程度。
内訳は、保育園が 13 回・小学校が 25 回（寺子屋含む）・中学校が 2 回。
- 新規に、都立高校での実践を目指す。
- 実践に際して、学校園の訪問や校長会への資料の持ち込み、教育委員会への働きかけなどを行う。
- 上記の出張授業の取り組みは 40 回程度の活動で、活動従事者は延べ 180 人程度を目指す。

A.2 環境教育指導者（主体）養成事業

A.2.1 環境教育ボランティア・インターンシップ

- ボランティアの積極的受け入れと同時に、オリジナルプログラムの開発を前提としたインターンシップの受け入れを進める。受け入れは、環境教育プログラムの研究開発・実践活動のほか、ビオトープ保全活動などを活用する。
- 大学へのボランティア・インターンシップの広報活動を積極化する。
- 環境講座などを通じて、地域住民など一般市民を対象とした環境教育ボランティアの募集を行う。

A.2.2 地域主体の育成（プログラムの共同開発ほか）

- 大学のゼミ活動やサークル活動、地域のサークル活動など、環境教育の地域における担い手を育成する体制を確立させる。育成には、環境教育プログラムの研究開発・実践活動などを活用する。
- 大学団体・市民団体などを対象に、今後地域主体となり得る団体を募集する。

A.3 環境教育協働推進事業（環境教育ネットワーク構築活動）

A.3.1 環境教育協働実践

- 板橋区内を中心とする小学校などへ、環境教育実践への支援を進める

A.3.2 プログラムの共同開発

- 発足から10年間参加している板橋区環境教育プログラム部会にスタッフが参加する。
- 板橋環境教育プログラムバンクへプログラムを掲載する。
- その他環境教育に関する研究会などにスタッフが積極的に参加する。

A.3.3 環境教育ネットワークの構築

- 地域主体の育成活動などを活用しながら、各地域で活躍する環境教育の担い手となる環境団体などのネットワーク化を目指す。

A.3.4 行政機関等への働きかけ

- 教育委員会をはじめとする行政機関に対して、環境教育の推進に向けた情報交換や協働を働きかけられる団体を目指す。

B 環境保全の事業

B.1 自然環境保全活動

B.1.1 ビオトープ保全活動

- 蓮根第二小学校のビオトープ保全活動に積極的に参加する。プログラムづくり W.S.の会場としても用いるなど、ボランティア確保のきっかけづくりも進めていく。
- その他ビオトープ普及に向けた活動に参加する。

B.1.2 ごみ拾い活動

- 荒川クリーンエイドの活動に参加する。
- 全国一斉水質検査に参加する。

B.1.3 緑地の保全・拡張に向けた活動

- 武蔵野の森を育てる会の行事・活動に参加する。
- 明治神宮の杜を拠点に緑化活動や啓発活動を行っている、いのちの森の活動に積極的に参加する。

B.2 地産地消推進活動

B.2.1 農業体験活動

- 区内での農業体験を実施。他事業と関連づけた取り組みが期待できる大豆と棉の栽培を基本としながら、その他農作物の生産を目指す。
- NPO 法人いた・エコ・ネットの「いたばしコットンプロジェクト」に参加し、糸紡ぎのノウハウなどを身につける。

B.3 自然エネルギー推進活動

B.3.1 自然エネルギー普及活動

- NPO 法人いた・エコ・ネットに、太陽光市民発電所の開発普及を目指し、2015 年度より団体参加してきた。今年度も引き続き参加していく。

C 社会教育の事業

C.1 エコツアー事業

C.1.1 沖縄・備瀬エコツアー

- 8月下旬頃に、沖縄県備瀬地域への第13回エコツアーを3泊4日の日程で主催する。

C.1.2 三宅島エコツアー

- 今年度は休止予定。

C.2 自然観察会・各種環境講座

C.2.1 自然観察会

- いたばし野鳥クラブなどとの共催で野鳥観察会の実施を検討する。
- 樹木・植物系の自然観察会の主催を検討する。
- その他、諸団体・自治体などの要望に応じて、自然体験活動を随時主催・共催する。

C.2.2 環境講座

- 任意団体【3.11 から未来をひらく会】に事務局団体として関わり、板橋区内の環境団体との協働により、3月の映画上映会・講演会を成功させる。
- 11月頃を軸に年2回程度にみそ作りワークショップを主催する。
- 東京家政大学の宮地ゼミとの協働による環境講座の開催を検討する。

C.3 各種イベント出展

C.3.1 イベント向けプログラム研究開発

- 出展するイベントのテーマや環境等を踏まえ、随時プログラムを開発する。

C.3.2 外部イベント出展

- 4月に、アースデイいのちの森 2017に参加し、ネイチャーゲーム利用のプログラムを実施する。
- 7月に、浮間公園で開催される環境フェスにて、自然体験活動を実施する。
- その他、新規出展イベントへの出展を目指す。

C.3.3 板橋区協働イベント出展

- 4月に、グリーンフェスタ 2017に参加し、かざぐるまづくりや紙芝居を活用した自然体験プログラムを提供する。
- 8月に、エコポリスセンター主催の夏休み子どもエコスクールに出展し、水力発電の実験などの指導をする。
- 2月に、環境なんでも見本市に参加し、活動紹介と状況に応じてイベント向けプログラムを実施する。
- いたばし総合ボランティアセンター主催の活動への参加を検討する。

C.4 板橋区指定管理者受託

C.4.1 板橋区立ボローニャこども絵本館管理業務委託

- いたばしボローニャこども絵本館の受付業務の委託事業を受託。年間 296 日の受付業務を遂行する。13人体制で開始する。

2. 管理部門

D 団体運営業務

D.1 組織運営

D.1.1 一般管理

- MLの再構築により、スタッフ募集活動を積極的に進める。

D.1.2 理事・事務局関連

- 学期に一度の頻度で、理事会を開催する。理事会に合わせて事務局会議も行う。
- 環境教育普及のために、無償で活動を支えている事務局メンバーを始め、ニュース発行、ワークショップの準備運営、各イベントの準備・広報・運営に献身貢献しているメンバーに課金出来る体制作りを全力を尽くす。

D.1.3 会員関連

- 会員 50 名を目指して、積極的に働きかける。

D.1.4 記念行事

- 今年度は該当する活動の予定はなし。

D.2 経理関係

D.2.1 一般会計

- NPO 法人会計基準協議会の定める NPO 法人会計基準に基づいた会計処理を実施する。
- 会計方針に依る経常収益の強化と経常費用の支払いを行う。
イベントへの参加費や SOE 独自の物品販売により収益を拡大させる可能性を検討する。また、寄付額を増やすために、寄付額を増やすために、会員・支援者へ寄付を募る活動を進めるとともに、長期的な認定 NPO 法人への移行を見据える。

D.2.2 助成金申請関連

- いたばし総合ボランティアセンター ボランティア・NPO 活動公募事業の助成の運営にあたる。
- 会計方針に依る今年度・次年度に向けた助成金の申請を行う。

D.3 広報関連

D.3.1 ニュース発行関連

- 年間 11 回の発行・発送作業を行う。各号 3,500 部程度を予定。
- ニュースの発送作業時などに、編集会議を随時開き、組織的に発信する内容の方向性や内容の検討をする。また、編集委員を募集し、編集部の組織を検討する。

D.3.2 ホームページ関連

- オフィシャルサイトを定期的に更新し、イベントの案内や団体の周知を進める。
- 特設ページ「センスオブアースで環境教育を学ぶ」では、大学生を中心としたボランティアの募集を進める。
- 特設ページ「SOE プログラムバンク」では環境教育のプログラムや資料などを発信する。
- Facebook ページやブログに関しても、随時更新する。

D.3.3 団体紹介

- センスオブアースの活動紹介資料を改定する。